

県立大学が誇るスマート農業の教育研究拠点

AIC Agri-Innovation Education and Research Center, Akita Prefectural University 秋田県立大学アグリイノベーション教育研究センター



Q AICとは？

秋田県立大学アグリイノベーション教育研究センター（以下AIC）は、スマート農業の教育研究拠点として令和3年4月に誕生しました。AICは県立大学生物資源科学部の組織を改編し、全学的な組織として新たにスタート。AIやビッグデータを活用して農作物を管理するシステムや、農作物の収穫を効率的に行えるロボットの開発等を進めるとともに、新しい農業の技術を指導できるスマート農業指導士などの人材育成にも取り組んでいます。秋田県の農業が労働力不足、後継者不足といった深刻な課題を抱える中で、AICは県立大学がこれまで蓄積してきた知見も惜しみなく投入。スマート農業にまつわる技術の高精度化と普及活動を通じ、秋田県の持続的発展に貢献することをめざしています。



県立大学大湯キャンパスに立地するAIC

AICではこんな研究をしています

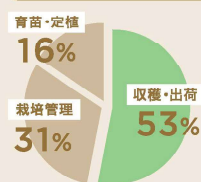
CASE 1



大玉トマト自動収穫ロボットの開発

大手自動車部品メーカーの株式会社デンソーと、県農業試験場との共同研究。ハウスの中を自走して大玉トマトを収穫し、コンテナまで運ぶロボットの開発と、ロボットによる自動収穫に適した環境や栽培方法の研究を行っています。

全労働時間に占める各作業の割合



収穫・出荷作業は全体の53%。自動収穫ロボットの開発は、高齢化や担い手不足に悩む生産現場における負担軽減につながります。



▲実際の様子

出典：秋田県の作目別技術・経営指標

CASE 2



ICTを活用したトマトの周年化栽培の研究

県産トマトの出荷時期は6～11月。これを4～12月に延ばす研究が進んでいます。県沿岸部のAIC（大湯村）や県農業試験場（秋田市）、内陸部（大仙市）にある研究用ハウスにおいて、徹底した温度管理による、安定的なトマト栽培に取り組んでいます。



大仙市では、栽培技術の向上につながるよう、トマト生産者を対象とした研修会を開催するなど、研究内容の周知活動を進めています。